

## 生理学実習

[実習] 第2学年 前期 必修 1単位

《担当者名》○林 泰弘 沖野久美子 幸村 近

### 【概要】

生理学Iおよび生理学IIで習得した知識をもとに、ヒトの生理機能について実習を通じて理解を深める。本実習では、皮膚感覚、心音、味覚、血圧、聴覚、酸素飽和度の測定を行う。実習内容により2グループに分け、グループ単位で実習する。

### 【学修目標】

生理学において学習した内容について実習を通してより深く学び、現実遭遇する異常を理解できるよう学ぶ。

- 1) 実習を通じて人の正常で基本的な生理反応を学ぶ。
- 2) さまざまな器官の機能と役割について理解することで病態の理解へと繋げていく。
- 3) 実習で対象となる臓器を深く知る。

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～3	皮膚感覚 心音聴取	・感覚点の分布 ・2点弁別閾 ・心音の聴診 キーワード：触覚、痛覚、反射、心音	林 泰弘 幸村 近 沖野久美子
4～6	味覚機能 血圧・心拍数	・電気味覚検査 ・濾紙ディスク検査 ・血圧・脈拍の測定 キーワード：味覚、聴診法、脈拍数、静水圧	林 泰弘 幸村 近 沖野久美子
7～9	聴覚検査	・聴力の測定 キーワード：音叉、聴性脳幹反応、誘発電位、電極装着	林 泰弘（グループA） 沖野久美子（グループB）
10～12	酸素飽和度	・酸素飽和度の測定、運動負荷やその他要因による酸素飽和度の変動 キーワード：酸素飽和度、SpO2、運動負荷、測定誤差	林 泰弘（グループA） 沖野久美子（グループB）
13～15	酸素飽和度（発表）	・酸素飽和度の実習について、グループ毎に発表 キーワード：酸素飽和度、SpO2、運動負荷、測定誤差	林 泰弘（グループA） 沖野久美子（グループB）

### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

### 【アクティブ・ラーニング】

導入している

### 【評価方法】

課題レポート 100%

提出された課題レポートについて、結果が適切に整理されているか、学修内容に基づいた妥当な考察が行われているかを総合的に評価する。

### 【教科書】

## 実習書を配布する

### 【参考書】

大橋敦子 監修「生理学実習NAVI 第2版」医歯薬出版株式会社 2018年

### 【備考】

実習レポート提出後に、結果の整理方法や考察の観点を示した解説資料を配布し、学生が自身の記述を振り返られるようフィードバックを行う。

### 【学修の準備】

疑問点は実習書や参考書を調べて、内容を確認する(20分)。

行った実習に対して、さらなる知識を深めるよう復習をし、レポートを作成提出する(40分)。

### 【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

(DP4) 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

(DP6) 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。

### 【実務経験】

林 泰弘(臨床検査技師)、沖野久美子(臨床検査技師)、幸村 近(医師)

### 【実務経験を活かした教育内容】

生理検査を主体とした臨床検査技師および医師としての実務経験を活かした教育を行う。

### 【その他】

この科目は主要授業科目に設定している